

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が「その人らしく」生活していくことの大切さを全員の職員が認識し、実現するために、独自の理念を掲げている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、全職員と理念を唱和し、理念の大切さを共有し自覚している。玄関や事務所内に掲示し、常に意識化するようにしている。職員は理念の大切さを、自身の言葉で語ることが出来ている		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進委員会(家族会)にて理解していただいている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所とは、深い交流はないが、散歩のときなど会話を交わし、花を頂いている。幼稚園を慰問したり、職員が地域の医療・福祉関係のところで講師をする機会等をおし、近隣との交流を深めるよう努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同上		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者、職員でゴミ拾い、空き缶拾いが行えるよう進めている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、月1回の定例会議、毎朝のミーティングで、自己評価及び外部評価の意義・目的を説明し、全職員で共有化を行っている。実施に際しては事前に全職員に説明し意見交換している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進委員会(家族会)にて、家族・町の職員・スタッフが参加し、現在、区長・民生員へは参加を依頼中である。現在の状況報告と課題検討を行い、参加者からは意見をサービス向上に反映させている。議事録は、家族・町・スタッフ・区長・民生員に配布し開示している		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回、地域のグループホームのスタッフと町の職員が参加するグループホーム連絡協議会を開催している。保険者への改善策や、制度の理解について相談に出かけたり、月に1回、町の介護相談員に来ていただき、利用者の相談に応じていただき、サービス向上に努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	契約時、利用者やご家族に地域権利擁護事業や、成年後見制度について説明し、理解していただくようにしている。玄関にも資料を置きいつでも閲覧できるようにしている。スタッフへは、それらのマニュアルに沿って研修を行い、必要なときの支援が出来るようにしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で、虐待防止の勉強会を行い、虐待防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居から退室までの手順マニュアルを作成し、契約時に説明を行い理解していただけるよう努めている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月1回介護相談員に訪問していただいたり、又、家族等とゆっくり会話出来るよう配慮している。職員に対しては不満や苦情を言いやすい雰囲気作りを心掛けている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>瓦版を作成したり、2ヶ月に1回の運営推進会議(家族会)で日頃の利用者の報告をし、又スタッフの異動についても報告をしている。ご家族が来所した時には、スタッフがそれぞれの利用者の健康状態等を把握して説明できるようにしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議やご家族の来所時に、どんな意見も言えるような環境を整え、出た意見に対して全スタッフが真摯に受け止め、運営に反映するよう努めている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のカンファレンスを行うことで、意見を言えるようにしている。役割分担等で、スタッフがそれぞれ権限をもって意見の交換が出来るように努めている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯に必要なスタッフを配置する勤務を立てている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内での異動はあるが、利用者のことを考慮して、最小限に留めるようにしている。やむを得ず退職する場合は、事前に家族や利用者に不安を与えないようにしている。又、異動は運営推進会議の時に報告を行っている</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>スタッフの採用にあたっては、性別や年齢に関係なく、認知症介護者としての適正を重視している。採用後は、スタッフの資質が十分に発揮して介護できるような環境を整えるよう努めている。研修への参加や意見に対して貴重な意見として受け止め、対応するよう努めている</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人内での人権学習については、利用者の日常生活に支障がないように参加している。スタッフ全員で人間の尊厳とは何かを常に意識化し、日々の活動の中での言動に十分反映するよう教育を行っている</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内研修では、参加状況を鑑みて同じ内容を2回実施し、全スタッフがトレーニングを含めて共通認識をし、質の向上の確保ができるよう努めている。又、法人では外部研修参加が規程されており、積極的に参加を促し、伝達研修をしてスキルアップに努めている</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回の地域のグループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行っている。交流が深まることで、色々な意見交換がされ、それが運営に活かされ、サービス向上に反映するよう努めている</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人にて、院内旅行やボーリング大会、忘年会、花見、ビアガーデン等を実施し、職員の交流やストレスの軽減に努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>役割分担を行い、権限を持つことで、向上心を高め、個々のスキルアップに努めている</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人に合わせた会話を楽しんでいただいている。アセスメントを行い、生活背景等の情報収集を行っている</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用までご家族と話し、傾聴することで関係を築いている。又、運営推進会議(家族会)にて信頼関係を築くようにしている</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所時アセスメント等を取り、ご家族や本人のニーズに応えられるように努めている</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族の希望があれば、昼間の時間帯の体験入居が出来るよう受け入れ態勢を整えている。ホーム内で日中過ごしていただき、他の利用者やスタッフと接することで徐々に馴染めるように努めている。又、宿泊体験を実施している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の生活暦の中で培ってきた得意とするところ、野菜の切り方や包丁の持ち方、縫い物などをスタッフが教わりながら共に過ごす時間を大切に、利用者支えあう関係を築いている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年間行事や、ドライブ等に参加していただき、同じ時間を過ごしていただけるように努めている		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族には定期的に連絡を行い、近況をお知らせしている。又、運営推進会議(家族会)参加や来所のお願いを促している		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩にてなじみの場所へ赴き、これまでの関係の維持に努めている		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の空間を大事にしつつ、朝・昼の一定の時間に体操及びレクリエーションを通し他利用者との交流を図っている		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時には、お見舞いに出向き、利用者との関係を維持している。又、永眠された時には、甲問させていただいている		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の初回アセスメントで、思いや意向の把握をしている。入居後も毎日の生活の中で、発せられた言葉や態度に注意し、希望や意向の把握に努め、気がついたときには、その日のうちにカンファレンスを行い、本人本位の検討を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に本人の生活歴や生活環境、趣味等をお聞きし、全スタッフが把握できるよう介護計画書の中に記載している		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活で、どう接していけば良いかを観察して把握できるように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時に、ご家族の意見を聞き、スタッフと話し合いながら介護計画書を作成している。日々の観察にて本人の意見を取り入れている		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、又は必要があればそれよりも前に見直しを行い、新たな介護計画書を作成している。ご家族には話し合いをもって事前に報告させていただいている		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察に努め、その都度ケースカンファを行い、対応している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内での生活にてレクリエーション等を行い、又行事等で他事業所や同法人との行事にも参加している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	幼稚園への慰問、消防署職員による火災防止講演等を行っている。運営推進会議(家族会)に、民生委員と区長の参加を依頼している		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	リハビリ希望者には、ご家族と連携し話し合いながら、実施できるように努めている		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域のグループホーム連絡協議会にて会議を行い意見等を頂いている		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の連携病院のかかりつけ医の場合は、定期的に往診していただくようにしており、遠方のかかりつけ医の場合はご家族に受診していただくようにしている		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の要望を聞き、かかりつけ医との連携を図り、往診を実施している		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の訪問看護ステーションと連携を図り、24時間連絡可能な体制を取っている。又、月に8回の訪問を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>同法人のソーシャルワーカー及び医師との連携をとっている。又、他医院の場合にもソーシャルワーカーとの連携は出来ている</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>医師及びご家族との連携をとり、終末期に向けての話し合いを行っている</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>リビングウェルについて、医師及び訪問看護との話し合いを行いマニュアルを作成している</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>使い慣れた用具、及び家具等を使っていただき、又ご家族が泊まれるような環境を整えている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりに、プライバシーを損ねるような声掛けや対応は行わないよう努め、記録等の個人情報は事務所内で他人の目に触れないよう管理している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの要望を聞き、その都度納得した支援を行えるように努めている		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大事にし、利用者主体の対応に努めている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月2回理容師の訪問があるが、本人の希望があれば、その都度対応している		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の病院と一括調理されているが、利用者の状況に合わせた調理方法を行っており、楽しく食事できるように努めている。食事の片付け等はスタッフと利用者がお互いに会話を楽しみながら行っている。週1回、利用者と一緒に手作り調理を行っており、利用者は準備から後片付け等一人ひとりの自分の力を活かしながら参加している		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族との連携を図り、好きなお酒を持参していただいたり、梅酒を造ったりと対応している。又、近所のレストランで好きなものを注文し飲食していただいている		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導の時間帯を決め実施。又排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は概ね13時30分から16時位までと決め、一日おきの入浴を行っている。毎日入浴を希望される利用者に対しては毎日入浴が出来るようにしており、又入浴拒否のある利用者には、タイミングをみて声掛けし入浴支援を行っている		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活パターンを尊重し、自室にてテレビを見たり昼寝をされたりしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、カラオケや囲碁、縫い物、マージャン、調理等一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみ事、気晴らしの支援に努めている		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、お小遣いをお預かりし、小遣い帖を活用し、近所のレストランや買い物へ参加していただき、使っていただくようにしている		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の希望により外出等を実施している。又、散歩等を行い気分転換を図っていただいている		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事及びドライブを計画し、ご家族の参加を促し交流を図っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話にてご家族との会話をさせていただいている		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間来所を受け付けており、利用者の自室にて楽しい時間を過ごしていただけるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での人権学習については、利用者の日常生活に支障がないように参加している。スタッフ全員で人間の尊厳とは何かを常に意識化し、日々の活動の中での言動に十分反映するよう教育を行っている		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は公道で車の通りが多く危険なため、玄関は鍵を掛けている。ご家族には説明し理解を得ている。部屋の鍵は掛けていない。広めのウッドデッキには自由に出入りできるようになっている。外に出来るだけ出かけるようにし、ストレスが溜まらないよう努めている		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者が不快に感じないよう配慮し、見守りを行っている		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	役割分担にてリスク委員、環境整備係で話し合い、その都度対応している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人及び事業所内での勉強会を行い、事故発生時には対応及び今後の対策(シェルモデル)を行い、意識の向上に努めている		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人及び事業所内での勉強会を行い、マニュアルを作成している		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報体制のシュミレーションを行っており、フローチャートや指示系統、緊急マニュアル等を整備し、年2回夜間想定で避難訓練を行っている		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時及びその都度、転倒・離設等のリスクをご家族に説明し、理解していただいている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の申し送り等で、利用者の状況を職員が把握できるようにしている。又週2回の訪問看護に体調の管理を依頼している		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を作成し、服薬管理を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養課にて食事管理を行っていて、朝の体操やレクリエーション、散歩等で身体を動かしていただいている		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア及びお薬等の摂取にて口腔内の流動及びケアを行っている		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に管理されたメニューを併設の病院で一括調理している。食事摂取量は毎食記録を行っており、水分量の観察が必要な利用者に対しては、水分摂取量を記録している		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員会にて予防及び対応についての取り組みを行っている。昼夜、次亜塩素酸ナトリウムにて床や手すり、車椅子等の吹き上げを行っている		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々の検食を行い、又次亜塩素酸ナトリウムにて器具の吹き上げを消毒を行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表玄関、裏口共にスロープがある。又、花を植えたりと親しみやすい空間作りを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家を改装しているため、所々に温もりのある雰囲気がある。居間からはウッドデッキに自由に入出りができ、部屋の光はカーテンで調整している。利用者は、食堂の椅子、居間のソファ、ウッドデッキ等で思い思いの場所で過ごされている		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室及び各所にソファやマッサージ機を設置し、空間作りをしている		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、ご家族とご本人が相談の上、好きな物を持ち込んでいただき、利用者が居心地よく過ごせるようにしている		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	リビングと各部屋に換気扇を設置している。又、利用者の体調に合わせ、外気を入れ温度管理を行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下・居間・浴室・トイレには手すりを設置している。車椅子の方も自走できる		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の前には自室が分かりやすいように表札や人形等を飾っている		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにて体操やレクリエーションを行っている。但し、ホームの外回りには段差が有り危険な箇所がある		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)